

第1回 真室川町巨木の森フォトコンテスト 入賞作品

平成24年度中に作品を募集した、第1回真室川町巨木の森フォトコンテストの入賞作品が3月21日の審査会において決定しました。全国から応募いただいた54作品の中から、審査委員長として、優秀作品の選定にあたった菅原富喜氏（山形県写真連盟顧問・新庄市在住）の寸評と共に入賞14作品を紹介します。これらの作品は、今後、町の刊行物やホームページ等に使用することで、町のPRに活用させていただきます。また、本年度も第2回フォトコンテストを計画中です。たくさんのご応募をお待ちしています。



最優秀賞

「滝の沢の一本杉」 高山真一（千葉県）

幹周り11.5m、樹高49m、県指定天然記念物、真室川町を代表する巨木。構図背景良く直幹天を突く巨木を中心に配し、左の人物が効いていますね。秀作です。

文化部門 優秀賞



「回転俵神輿」 熊澤禎男（鶴岡市）
俵御輿を軽々と持ち上げ、威勢良く踊る村の珍しい伝統行事。動的被写体を早いシャッターで巧く表現されています。良い作品です。

自然部門 優秀賞



「盛夏」 庄司信一（真室川町）
構図の良い作品。手前から、水辺、自然、山、空、自然環境を巧く入れて、ベテランの目でしょうか。その無い風景写真ですね。秀作です。



「錦秋の森を歩く」 高橋浩幸（真室川町）
女闘山の麓にて撮るフナ林と四人の人物のからみ、森の楽しさと美しさが人物を具合よく配置したことで引き立った良い作品です。

文化部門 特別賞



「聖域に舞う」 熊澤禎男（鶴岡市）
八敷代番衆保存会の皆さん、獅子舞の奉納場面、背景の緑の自然人物とのバランスが効いていますね。



「八敷代の村祭り」 高山真一（千葉県）
神社から宿に向かう氏子の皆さん、緊張の若連の表情と、後に続く村人たちの表情がおりるいいですね。

審査員特別賞



「もう見れない八敷代橋」 高橋光雄（真室川町）
平成23年2月7日爆破により解体撤去された、今はもう見れない八敷代橋、その3カ月前、撮影された記録写真、後世に残る貴重な写真です。

自然部門 特別賞



「錦秋」 松澤純一（真室川町）
紅葉の原風景、緑、赤、黄、山肌、色調のコントラストも良く表現され、秋の山の魅力を伝える良い作品です。



「森の守護神」 清水幸雄（山形市）
威風堂々たる森の王者、女闘山の大カツラ、絶妙なカメラアングルが功を奏し、巨木のバランスも良く、背景の紅葉の色彩や周囲の環境がその存在感を引き立てています。



「厳冬」 松澤純一（真室川町）
雪晴れの日、雪山の表現が巧い。雪の色調が若干青く、立体的表現、Pレフィルターが効いていますね。山岳写真の秀作です。



「がんばれー」 熊澤禎男（鶴岡市）
八敷代番衆を踊る子供たち、おひねり飛び交うユーモラスな名場面、シャッターチャンスをつまくとらえています。



「神輿だ、わっしょいー」 熊澤禎男（鶴岡市）
突然家の前で景気の良い掛け声、俵御輿を奉納して歩く若連の皆さん。家の人も大歓迎の表情、シャッターチャンスですね、とても良い作品です。



4月10日に行われた表彰式で入賞者